

第8回 基地周辺地区安全対策協議会 議事録

1 開催日時

平成27年3月20日（金）13：15～14：30

2 開催場所

横須賀市職員厚生会館3階 第1・2研修室

3 議案

米海軍横須賀基地の艦船の変更等と市の対応について

4 構成員名簿

別紙

5 傍聴人の人数

3人

6 議事の要旨

以下のとおり

事務局（基地対策課長）

それでは定刻になりましたので、ただ今から第8回基地周辺地区安全対策協議会を開催いたします。私は本協議会の事務局であります横須賀市政策推進部基地対策課長の藤原と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

会議に先立ちまして私のほうから本日の出席者のご紹介をさせていただきます。

【席次表に基づき、会長以下順次構成員を紹介、構成員各自立席し挨拶】

よろしくお願ひ致します。

本日の出席者は過半数に達しております。よって、当協議会要綱第4条第2項の規定により、本日の協議会は成立していることをご報告申し上げます。

なお、本日は報道の皆さま、また傍聴の方も見えられております。録音機により記録を取り、議事録についても公開されますのでご承知おきください。

それでは開会にあたり、本協議会の会長であります沼田横須賀市副市長からご挨拶をお願ひいたします。

沼田会長

開会に先立ちましてひとことご挨拶をさせていただきます。

本日、年度末ということで何かとお忙しい時にお集まりいただきましてありがとうございます。

基地周辺地区安全対策協議会は、平成 18 年 3 月に米海軍横須賀基地の周辺地区における安全対策について、横須賀市、市民、米海軍等が連携して協議するために設置されたわけでございます。

この度の開催は第 8 回目となります。

前回の開催は平成 24 年 12 月ということですので、約 2 年ぶりの開催になります。今後も適宜開催していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

本日の開催の趣旨でございますが、昨年来より、原子力空母交替の発表でありますとかイージス艦の追加配備等の発表がなされております。

そうした状況につきまして、市のこれまでの対応を順を追って、皆さまにご説明することが中心となっております。

本日の協議会開催について、皆様のご協力をお願いいたしまして、甚だ簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

また、議事の進行につきましては会長であります私が務めさせていただきますのでご理解を頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

事務局（基地対策課長）

ありがとうございました。なお、カメラ等による撮影につきましては、申し訳ありませんがここまでとさせていただきます。それでは、今後の進行につきましては、会長をお願いいたします。

沼田会長

それでは、早速ですがお手元の次第によりまして、議事に移らせていただきます。本日の議題は「米海軍横須賀基地の艦船の変更等と市の対応について」であります。まず事務局の本市基地対策課から説明をさせます。お願いします。

事務局（基地対策課長）

それでは事務局からご説明申し上げます。お配りしています、資料をご覧ください。いま、会長からお話のありましたとおり、米海軍横須賀基地の艦船の変更等とそれに対する市の対応について時系列に沿ってご説明いたします。

昨年の 1 月以来、国から米海軍横須賀基地に配備されている艦船についての追加や交替の通報が何度かありました。それにより国からどのような説明が今まであったのか、

また、その都度、市がどのような対応を取ってきているのか、それを今日はご説明したいと思います。

昨年1月15日、外務省が横須賀市に來訪しまして、米原子力空母の交替について説明がありました。

国の説明をそのまま概略申し上げますと、現在配備されております空母「ジョージ・ワシントン」が同じく空母「ロナルド・レーガン」に交替する。後継艦のロナルド・レーガンについては諸元、大きさであるとか乗組員の数であるとか、ニミッツ級という級に属する艦船ですけど、それらは全て同じ。また、米軍人の人数に大きな変動も無い。また、配備される横須賀基地の港の施設等の変更は不要である。また「ロナルド・レーガン」については平成27年後半に横須賀に入港予定である、という説明でした。

この説明を受けまして、市の対応ですが、市長からの確認・要請事項として、原子力艦船に関するこれまでの米側のコミットメント、いわゆる安全性とかについての説明が堅持されるのか。また、25年の4月に原子力艦の防災対策について国に照会しているのですが、それに対する現段階における国としての回答を求めました。

それと、米海軍関係者の事件・事故について、再発防止と教育の徹底、併せて本市の役割について、政府として正當に評価・政府全体として負担軽減に努めること、それを申し上げた次第です。

この要請を受けまして同年1月23日、外務副大臣が來訪しまして、文書で市に回答がありました。

国の回答の概略を申し上げますと「ファクトシート」等、これは原子力空母の安全性について説明したものですけれども、それらについては空母「ロナルド・レーガン」についても適用される。政府として米国政府に対し米原子力軍艦の安全性について引き続き万全の対策をとるよう働きかけていく。また、横須賀市からの照会にあった原子力艦の原子力災害対策の見直しについては、関係府省において適切に対処する。しかしながら、そのためには一定の時間が必要である、という説明でした。その間、万が一の事態が発生した場合は、現行の「原子力艦の原子力災害対策マニュアル」、これに従って対応する。今後についても横須賀の米軍に関わる幅広い課題について、市とよく相談し、積極的に協力して取り組んでいく、そういう回答でございました。

これを受けまして市からあらためて要請したのが、米国政府に対し、米原子力軍艦の安全性について、引き続き万全の対策を取るよう働きかけること。また、原子力艦の原子力災害対策について、一定の時間が必要ということですが、今後更に政府内での議論や調整を進めること。最後に、本市の役割について、政府として正當に評価し、政府全体として負担軽減にしっかりと努めること、以上を確認し要請をしたところです。

また、昨年10月のことですが、外務省と防衛省南関東防衛局が來訪しまして、イージスBMD艦の追加配備についての説明がありました。イージス艦というのはイージスシステムというレーダーシステムを搭載した米軍の艦船ですけども、BMD艦につい

では、バリスティックミサイルディフェンス (Ballistic Missile Defense) システム、弾道ミサイル防衛システムを備えた船ということであります。

その艦船の追加配備についての国の説明がありました。概略説明しますと、平成 27 年 8 月、BMD 対応イージス艦「ベンフォールド」を横須賀に追加配備。また平成 28 年 2 月、現在配備されているイージス艦「ラッセン」が BMD 対応イージス艦「バリー」と交替する。また、平成 29 年 7 月には BMD 対応イージス艦「ミリウス」を横須賀に追加配備するというものでした。

これについて政府としては、今般の BMD 対応イージス艦の追加配備は、北朝鮮による弾道ミサイルの脅威が存在する中、日米両国の弾道ミサイル防衛能力を強化し、我が国及び地域の平和と安定に資するものであると認識。2 隻増隻になることについて、地元の理解と協力を得ながら進めていく。横須賀市の懸念や不安の軽減のために必要な取組について、しっかりと対応していく。地元の皆様の安心・安全の確保についても、引き続きしっかりと取り組んでいく、そういう説明でした。

それに対し、市の対応ですが、いま現在米海軍横須賀基地には 11 隻の艦船が配備されています。お配りしました資料に私ども基地対策課で作りました簡単な艦船一覧の資料がありますが、そちらを参考にさせていただけたらと思いますが、この 11 隻の体制については、平成 4 年に 1 隻追加配備され 11 隻になってから実に 23 年ぶりの追加配備となります。そういうこともありまして、市からは、市民生活に今回の件がどのような影響があるのか、政府に対し、改めて説明を求めるという対応をいたしました。

また、引き続き原子力艦の原子力災害対策について、回答がありませんでしたので政府内での検討をさらに加速させること、以上を市として求めたところです。

翌月になりまして、市の方としても新たに艦船が配備されるということについて、どのような影響があるのか、それを国に対して文書で照会しました。

照会の概要につきましては、以下のとおりですが、まず船が配備されることで人も増えることも予想されますので、人員、住宅について乗組員とその家族を含めどのくらいの人員規模になるのか。また、その人たちの住居の確保はどのようにするのか。それと現行施設のなかでの配備になりますので、施設のキャパシティ、それだけの船が増えることについて、現在の施設で係留が可能なのか。また、米軍基地内には 5,000 人規模の日本人従業員が働いますが、その基地従業員の労働環境についてどのように対応するのか。最後に人が増え横須賀に共に暮らすことになりますので、新たな乗組員及び家族に対する日米の文化や生活習慣の違い等についての教育訓練の実施予定、以上について、文書により、実際には会長の沼田副市長が防衛省に赴きまして文書照会をしたところです。

続けて、年が変わりまして本年 1 月 16 日、またイージス艦の追加配備について説明がありました。その時の国の説明は、本年、平成 27 年夏、イージス艦「チャンセラーズビル」を横須賀に追加配備する。日本を取り巻く東アジアの安全保障環境が一層厳し

さを増す中で、日米同盟の抑止力を向上させ、我が国及び地域の平和と安定に資するものであると考えている。今回の配備に伴い、約 350 名の海軍兵が増加する。施設の追加的な変更は必要としない見込み。そういう説明でした。この説明に対し市長からは、10 月にイージス艦の追加配備の発表があったばかりであり、そういう中での情報提供のあり方については苦言を申し上げました。

また、一連のイージス艦の増隻・交替に伴う市民生活への直接的な影響については、国に照会しているところですのであらためて回答すること。何といたっても市民生活への直接的な影響等については、国からしっかりと説明すること。それを国に対して求めています。

この横須賀市の求めに応じて、同月の 30 日、防衛大臣政務官が来訪しまして、防衛大臣名の文書を以って回答がありました。回答の概略は以下のとおりです。

まず、人員、住宅については、米側から増加する乗組員及びその家族の正確な総数について、回答できないとの説明があったが、艦船の公表諸元によると、乗組員の合計は約 1,000 名程度である。増加する乗組員等は、施設・区域内の既存の隊舎、家族住宅、または、施設・区域外の民間住宅に居住する。現段階では、施設の大きな変更は必要とされない見込みであるが、今後、米側から隊舎等の整備の要望がなされた場合は、その必要性について十分精査した上で、整備の可否を検討する。というものでした。

また 2 番目の項目の現行施設の中で係留可能なのか、キャパシティが足りるのか、ということについては、施設の大きな変更は必要ない見込みであり、全部で 14 隻の配備になりますが、米艦船の係留については、現段階では、同施設・区域内の既存の係留施設を使用するという米側からの説明を受けたという回答です。

3 番目の基地従業員の労働環境についてであります。米側に対し、業務に見合った適切な人員の配置や適正な就業計画の実施を求める。また同じく米側に対して、駐留軍等労働者の安全確保に万全を期すよう求める。そういう回答でございました。

最後に教育訓練についての回答ですが、日本に着任する軍人、軍属及びその家族に対し、教育プログラムとして、横須賀基地司令官及び在日米海軍司令官が、服務規程や「最良の隣人たるべきこと」等について、継続して教育を実施する。教育の具体的な内容としては、基地内外の規則、法律、日本語及び日本文化に関する講習並びに実地研修。また毎月第 1・第 2 木曜日放映の基地内のテレビ番組で、横須賀基地司令官が、服務・倫理規定について周知する。そういう米側の説明が回答にありました。そして、防衛省としても、機会あるごとに、隊員等の教育や綱紀粛正の徹底を図るよう米側に求めていく、という文書回答でした。

この回答を受けて市から中身を確認したところ、最終的には横須賀市の懸念や不安軽減のために引き続き真摯に対応する、そういう回答が防衛省からあったところです。

以上が昨年 1 月以来、空母の交替から今年 1 月イージス艦の追加配備、それを受けた回答までの国の説明とそれに対する市の対応の概要です。私からの説明は以上です。

沼田会長

それでは続きまして、今回の艦船の配備等に伴いまして新たに赴任する米軍関係者に対する米軍の取り組み状況について、ご説明をいただくことになっております。米海軍横須賀基地司令部、清水民事部長よりよろしくお願い致します。

清水構成員

米海軍横須賀基地の清水でございます。教育訓練に関してなんですが、先ほど事務局からご説明がありましたように日本に着任する軍人また軍属、その家族に関しては教育プログラムというものを毎週、現状においても行っております。

また、来日する予定のロナルドレーガン並びにU S S ベンフォールド、これらの艦船の軍人、またその家族に関してなんですが、実は2月10日から17日までの間に私どものファミリーサポート&サービスセンター、こちら通常、私ども横須賀基地の中においてさまざまな軍人、軍属、その家族への身の回り、例えば日本で住むうえでの不安ですとか解消する部署がありますが、そこの担当スタッフが2月10日から17日までの間、サンディエゴ、現在レーガンとベンフォールドが停泊しているところに参りまして既にオリエンテーションを行っております。これは日本に来日することに向けてのオリエンテーションを行っております、これは1回限りでは無くて定期的に来日するまで行って参る予定です。

既にその都度、隊員と家族含めてなので何百人単位でオリエンテーションを行っていくわけですが、さまざまな日本に対する質問を受けて、また、こちらからは日本に赴任する上での心得などをこれから来日するアメリカ人の方達に教育をして参りました。

また日本に来てからも、こういったことは定期的に行って参りますし、ケアプログラムというものも実施しておりますので、先ほど隊員等への教育や綱紀粛正というものもございましたけれども、私ども米海軍でも定期的にも今後とも行っていく所存でございます。以上です。

沼田会長

ありがとうございました。ただ今、横須賀市の基地対策課長及び米海軍の清水民事部長様から説明をいただきました。これにつきましてご質問並びにご意見等ございましたら承りますのでよろしくお願い致します。

上田構成員

いまご説明いただいたなかで市の対応のなかの4頁、いま清水部長からお話し頂いた教育プログラムの件ですが、我々も実は何年か前でしたか、教育プログラムの見学をさせていただきました。あの時、非常に実は感動しました。おかげさまでこのところ米

軍の事件についても非常に少ない数で推移しております。これも実は我々も一緒になってやっておりますけど、毎月行っております環境パトロール、これにも関係団体並びに米海軍、海上自衛隊の方もボランティアとして参加していただいております、そういう中で和気あいあいと皆が一緒になって町の環境を守ろうということで挨拶だとか清掃活動をやることもですね、事件が少なくなってきたことの一つの救いになっているのかなと思います。

そんな中で、そうは言いますが、やはり今、何年か経っておりますので、この教育プログラム等についても今どんな形でされているのか、もし見学する機会があれば是非やっていただけると有難いなと思っています。今お話聞いていましてこれは今回着任する方々についても内地と言いますかアメリカの国内でそれに対応する教育プログラムをやっていたいであるということなので非常に心強いところがあるのですが、出来ましたらそういう機会を与えていただけたらありがたいなと思ひまして質問させていただきました。

沼田会長

民事部長いかがですか。

清水民事部長

是非、その教育プログラムに関しては、ご視察いただければと思います。ただ、この教育プログラム、毎週行っております、月曜日から金曜日まで非常に長いスパンでやっております。1日非常に長いのでどこかで区切って、一部分だけでも是非ご覧頂ければと思います。一緒に行動してしまいますと非常に長いものなので。

実際には、例えば鎌倉まで行って電車に乗る訓練なども行っておりますので、そういったものは省いて、実際のスタートの時とか、実際に私どもの憲兵隊が講師となって基地周辺、日本におけるさまざまな、防犯もそうですけれども、していいこと、してはいけないことも含めて教えている場面、そんなところもご覧いただければと思いますので、是非こちらでも機会を作りたいと思います。

沼田会長

それでは、教育プログラムの視察の件について、実施の方向に向けて事務局は調整を図っていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

事務局（基地対策課長）

わかりました。皆様方の日程等調整して実現するために図りたいと思ひます。

山下構成員

私の住んでいるところは汐入駅の周辺ということで駅から50mほどのところですが、私の家から約80m範囲で13軒の外人の方、米兵とか軍属の方が住んでいます。日本人の三分の一くらいですが、一軒家に住んでいます。

何が困るかというとな名前が分からなくて、毎日ゴミ出しなどでおはようございますと挨拶するのですが、どんな方かというのがわからないし、いろいろありますから名前だけでも知りたいなというところ。そういう方がどういうところで働いているのかわかれば対応が出来ると思うのですが。

小さい地域ですけど、ご夫婦もいますしお子さんもいますし黒人の方もいれば白人の方もいて、なかにはフィリピンの方もいたりするのですが、ちょっと不安なところもあります。何故かと言うと、いろんなところの対策で安全対策とかあります。そういうところでも声かけられるかという話があります。地域一体となって避難訓練とかすることありますから、そんな時でも名前が分かれば一緒に参加して頂けるのかなど。日頃、笑顔で対応していますから案外仲が良いのです。ただ、こっちから聞けないものですから名前が内々にでも分かれば、そういうところが心配なものですからよろしく願います。

清水構成員

ご指摘いただきましてありがとうございます。

非常に基地の表に住まう方、多くなってきておりまして、実は私どものハウジング事務所というところがございまして、そこで地元の不動産業者を通して軍人や軍属その家族が表に住まう手配をしているのですが、そのハウジング事務所が不動産業者の方に必ずお願いしていることがあります。これが何かといいますと、それこそ昔ながらの「向こう三軒両隣」の方には必ずご挨拶をしてもらおう、ということを徹底してお願いしています。

ただ、正直なところ実際それがきちんと出来ていない状況も聞きますので、それらを私どもとしても徹底していききたいなと思っています。もちろん特に町内会、戸建てに住む方も多いので、例えばゴミ出しであるとか町内会のルールとかもあるかと思えます。

また、防災の訓練をされる時も声掛けをしたいけど名前も何もわからない、家族構成もわからないという状況は我々としても防ぎたい状況ではありますので、そう言ったところも含めてハウジング事務所を通じて改善策を施していききたいなと思っています。

ただ、私どもとしても地域には、大概任期で2年か3年しかいないですけど、その間は皆さんと仲良く過ごしてもらいたいという気持ちが強くありますので、必ず挨拶も徹底して行うようこちらのほうも指導していききたいと思えます。地域の色んな交流というのもあると思えますので、これからも米軍人の家族に声掛けをしていただければ幸いに思えます。

ニーマイヤ構成員

ちょっと付け加えて良いですか。私達にとっては、町内会はすごく大事な存在だと間違いなく思っています。でも問題は、海軍の人たちは町内会とは何なのか、どういう役割を果たしているのか、どういう存在なのかを知らない人が多いです。アメリカにはそういうシステムが無いので。ですから清水民事部長がおっしゃったように、やはり何らかの方法でそのギャップを越えてお互いに理解できるようなことがあれば良いと思います。

私の1つのアイデアですが、町内会には回覧板、あれは外人の家にも回せば見ると思いますが、全部漢字になるとわかりません。

基本的な情報を、貴方はどこの町内会にいて、会長の名前は誰それです、何かあったらこの電話番号です、それをまず日本語バージョンがあれば、私たちが英語に訳してそれを回せるようにすればというアイデアですけど、考えて下さい。

山下構成員

以前もそういうことがあって、清水さんに相談して英文でやってもらったこともあります。私もいつもパトロール出ているので清水さんに良くお会いするので何かあった時にはいつも頼んでいます。ニーマイヤさん言ったとおり、やっていただければもう少し親密になると思います。私の2軒隣もそうなんです。斜め前もそうなんです。案外、会話は出来ないけど、会う度に、こんばんはとか挨拶程度は出来るのですが、私がどういう立場かというのも向こうは分からないわけですから、できれば先ほど言われたそういったアイデアも良いのかと思います。

あと、集合住宅、マンションなんか聞きますとちょっと怖い場面があるって言うのですね。同じエレベーター乗ったときに女子高生の住んでいる方が、外人が3人くらい乗ってくるとちょっと怖くてとか言うんですよ。だからそういう集合住宅も含めてそういうことが分かった方が安心感が出てくると思います。それ以上のことは出来ませんがともそれくらいは良いのかなと感じますね。

清水構成員

ありがとうございます。

集合住宅の方で言いますと、やはりエレベーターのなかで、そういうことがあったりとか、そういうことももちろん聞きますし、上下階で騒音がうるさいとか、マナーが悪い等の苦情も来たりもするわけですけど、そういったものもすぐに通報していただければ、彼らがわからなくてやってしまっているケースっていうのもあります。

それはこちらのほうで、すぐに教育していけば、それはすぐに改善できるという問題でもありますし、エレベーターにいつぺんに乗り込まないでとか、ということになると人種差別的なものも出てくるかもしれませんが。

もう1点が、その逆で、米軍人が集合住宅に住んで非常に怖い思いをしているというのもあって、例えば、生活騒音、普通に歩く音だけで階下の人に怒鳴られたとか、いわれもない苦情を受けたりだとか、そういったケースも実は多く聞いております。そういったものもやはりコミュニケーションが非常に大切じゃないかと考えています。

我々も間を取り持つために努力はするのですが、いかんせん何百人、千人くらいの方が表に住んでいたりしますと全部にはなかなか行き渡らないで、中には理解が無いだけで喧嘩になってしまったり、結果的に米軍人がそのマンションを出ていかなければならなくなったり、そういうちょっと不幸なことも起きておりますので、その辺に関しては是非、皆様方のご協力も得ながら改善できたらと思います。

川口副会長

今年ロナルドレーガンをはじめイージス艦が3隻も増えて新しく米海軍の方がたくさん来ると思うのですが、今までやってきた外出時間の管理統制についての変更等はこれからは無いと思うのですが、是非無いようにしていただきたいと思っています。

というのも外出時間が非常に短縮されて、それが却って逆のひずみを生んだことがあって、短縮時間を今の時間にしてくれということをお我々はお願いしたことがあります。それが今のバランスは大変良くて、町の治安が上手く保たれてると思うのです。

ですが新しい人たちが来て、それをきっかけに長くなったりすると、また状況が変わって治安が乱れることも考えられるので、是非、現在の外出時間の管理統制の時間を変更しないで頂きたいなと思っています。

それから今、外出時間の管理統制は艦船以外の町に住んでいる方達に対しても適用されますか。

清水構成員

確か、前回の協議会の時にこの話題になったかと思うのですが、全部に適用されません。現状においては変わることは無いんですけども、ただこれも横須賀基地ではなくて例えば他の在日米軍基地で問題が生じて全体の在日米軍司令部がその時間を、要は門限を厳しくします、と言われた場合は我々もそれに呼応しなければならなくなる場面というのはどうしても出て参ります。なるべくそうならないように我々の方もしていきたいと思うのですが。

川口副会長

市内の集合住宅とか戸建てに住んでいる人も、この時間制限は適用されるということですね。

もう一つの問題ですけども、今言った市内に住んでいる方達のゴミに対する認識が非常に甘くて、各所で特に本町の丘陵地帯とかで大きな問題が起きているわけです。ゴ

ミが規則通り捨てられていないということで。是非、新しく市内の住宅に入居される方達に対してはゴミに対する教育というものを徹底していただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

清水構成員

承りました。ゴミの分別に関してはこちらもハウジングオフィスというところで、例えば横須賀なら横須賀の分別方法、葉山に住む方なら葉山の、あそこもまた違う分別方法ございます。収集方法も違います。逗子とか横浜それぞれに合わせた物を全部英訳して、それぞれ住まうところ、方々ににお渡ししていますので。

それでもやはり細かくて難しいというのがあります。ただ万が一、間違った分別方法をしている場合は必ず直してもらうようにこちらも指導しておりますので。

沼田会長

ただ今、汐留の町内会長さん、そして本町の町内会長さんから発言ありましたけれど、これらにつきましては何も2つの地域ばかりの問題ではございません。

回覧板の問題、ゴミの問題もそうですし小さなトラブルの問題、これにつきましては今後のことにつきましては基地対策課の方で良く検討していただきたいと思います。

事務局（基地対策課長）

わかりました。皆さまのご意見をよく聞いて米側とも調整しながらコミュニケーションとかより良く取っていく方法を考えていきたいと思えます。ご意見ありがとうございました。

沼田会長

他に特に無いようでしたら、次第の4「その他」ということで移らせていただきます。

本協議会として、あらためて米軍関係者に関わる事件の状況、また安全対策の現況について触れておきたいと思えますので事務局からの説明を求めます。お願いします。

事務局（事務局（基地対策課）

それでは事務局から、米軍関係者に関わる事件件数について資料に基づき説明をさせていただきます。私は、基地対策課で基地対策担当主査をしております松葉と申します。

それではお手元の資料、「米軍の事件件数」をご覧ください。

安全対策協議会の立ち上げ以降、平成19年度からの事件件数を年度別に示しております。これは国からの連絡を受けて、市で承知している件数です。なお、これらのなかには市外において発生した事件の件数も含まれております。

年度別の件数でございますが、こちらの表にありますとおり、平成 19 年度が 4 件、平成 20 年度が 2 件、平成 21 年度が 4 件、平成 22 年度が 3 件、平成 23 年度が 3 件、平成 24 年度が 7 件、平成 25 年度が 7 件、今年度、平成 26 年度においては、まだ 10 日ほど日数を残してございますけれど、事件発生数は 0 ということでございます。

簡単ではありますが、米軍関係者の関わる事件数についてご報告させていただきました。以上でございます。

大竹構成員

このデータは米海軍横須賀基地の関係者に関わる件数ということでよろしいのですか。

事務局（事務局（基地対策課）

はい、そうです。

ニーマイヤ構成員

見えるように数字が良くなっていますが、だからと言って教育を緩めることは無く、きちんとしっかり教育し、善き隣人となるよう引き続き努力します。

1 つ指摘したいのは、あまり外には知られていないかもしれませんが、近年には日本の防衛省が独身寮を基地の中に造っています。それでちょうど去年でしたか新しく 8 階建ての独身寮が基地の中に出来上がりました。

我々はポリシーとしては、若い水兵達を陸上にある部屋が過去から無いということで船に住んでる若い水兵達が多くいたということで、船では無くて基地の中に部屋があれば、その部屋を利用してそこで寝たりとかパソコンとかコンピューターゲームとかビールとピザとか自分の部屋でということで、そういう意味では近年、部屋の数が増えたので、それも事件の数が減ったことの一つの原因になってると私は思っています。

そしてまだまだ船に住まなければならないという状況が現在でもありますので、是非、日本政府、防衛省がプラスアルファの独身寮が建てられるようお願いしたいです。

大竹構成員

事件件数データそのもので、件数が減っていくことは良いことだと思いますけど、多いか少ないかということが、例えば一般の横須賀警察署管内で日本人が起こす件数の平均レベル例えば、人口千人当たり何パーセントであるとか、そういうデータベースと比べて多いのか少ないのかの判断、無いということがいちばん望ましいことなんですけれど、人間が集団で暮らす以上、何らかのトラブルが発生するわけで、そういうなかで米海軍のものとか、そうした時の判断を加えていかないと。ただ単に件数だけでは、それは少ないほうが良いのは確かなのだけど、多いか少ないかという判断は一概にはできな

いのじゃないかと思うのですが、その辺はいかがでしょう。

事務局（基地対策課長）

ご意見のとおり、多い少ないとかではなく、ゼロを目指して取り組んでいかないとならない課題だと思っています。今後データ等についても色々な角度から検証等しながら取り組みたいと思っています。

富岡構成員

話が前後してしまうかも知れませんが、教育プログラムに関して2点ばかりお願いをしたいのですが、昨年の平成26年の10月1日に官公庁の方から免税店、タックスフリーですね、これに対しての条例で観光客に対して消費税を免除するように、それで外貨を求めようと中国人の方が来たり、商店が利益になるようにということで免税店の条例等がありましたけど、ちょうど本日3月20日に平成町、大津の方で大きな店舗が今日開店になっているんですけど、そこで横須賀初の免税店舗ですという謳い文句がどんと出ているんですね。

いろいろ調べてみましたら、まず最初に免税店の許可は官公庁のほうで必要なのですね。ですから簡単には免税店は出来ませんよと、それからカウンターが必要だということで滞在6か月以内の人、それからパスポートを提示しなくちゃいけないこと、それから11,000円以上買い上げた方ということで状況的にどう見てもこれは米軍の方は対象外だということになります。

米軍の方はIDパスポート持っているかも知れませんが、また、別のパスポート持っているかも知れません。それを提示すれば万が一大きな店舗ですとOKを出しちゃう可能性もあるわけですが、その辺は教育プログラムの方で徹底していかないと後々問題が出てきてしまうのかなと。

それから横須賀市内の商店街としましては、個別に官公庁に許可出さなければいけませんので、これはちょっと難しいかなという状況ですので、たぶん免税店という認識では市の方も確認取っておいた方がよろしいかなと思いますので、そちらの方お願いを致します。

それともう一つですが、先ほど上田さんのほうでお話あったように私も前回、教育プログラム参加させていただきました。その中で20歳過ぎくらいの女性の隊員が、もし日本人に絡まれたらどうしたら良いですかと当時、説明をされていた司令官にお話ししたのですが、司令官はMPを呼んでください、というお答えをしたんですね。

我々日本人としてみれば日本人が近くに居るんだったら日本人に助けてもらえばいいじゃないかと思ったんですが、その辺はやはり、ご説明のなかで必要なかなと思いました。

現に1月12日、汐入駅で国家公務員が、国際手配されているアメリカ人に暴行を受

けて、それが軍の 21 歳の若い男性が仲裁に入ったということで、この方も一緒に被害を受け殴られたという事件がありました。国家公務員は青森の方の国家公務員だったみたいで表彰とか感謝状とかそういうものは一切なしで終わってしまっているようですが、日本人が酔っぱらって絡んだら、日本人が助けるっていうのが一番かと思えますので、その辺も教育プログラムの中に加味していただければと思います。

清水構成員

ありがとうございます。

まず免税店に関しましては、横須賀基地に赴任する在日米軍の軍人また家族、軍属含めてなんですけど SOFA といまして日米地位協定に基づく立場で入国しております。ですから当然、観光ビザではなくて、おそらくその免税店というのは基本的には観光で来られた方を対象にそういった政策を行っているのかと思います。なので残念ながら、私たちの軍人、軍属その家族に関しては、まあ除外扱いになってしまうかと思えます。その辺に関してはきちんと我々の方でも教育、伝えていくようにしたいと思えます。

また 2 点目の部分においてですが、先ほどのマンションの事例では無いんですけど、やはりコミュニケーションが大切かなと思います。若干やはりアメリカ人も日本人に対して恐怖心を抱く人たちも中にはおります。その逆も非常に多くあると思うんですけど。

そういった見えない壁みたいなものを取り払っていく努力というのは我々の方でしていかなければならないと考えています。誰でも気楽に声掛けできるような、声を掛けても襲われたりだとか急に喧嘩になったりとか、そういうことではなくて普通にフレンドリーな形で話せるような環境があるんだよ、というところを伝えていって、それを実践していただくということが大変必要かなと考えます。

沼田会長

免税店については市の方も関連する部分がありますから、経済部と良く打合せをして下さい。

事務局（基地対策課長）

良く調整して対応したいと思います。

では、この会が契機になって出来ましたスーパー防犯灯の稼働状況について、事務局から報告いたします。

事務局（地域安全課長）

市民安全部地域安全課長の小関と申します。よろしくお願ひいたします。

スーパー防犯灯設置の経緯でございます。皆さま方ご存じのことかと思えますが、平成 18 年 3 月に設置された本基地周辺地区安全対策協議会において協議を重ね、現地調

査等を行い、基地周辺地区における安全対策の一つとして、防犯カメラ機能と警察署への緊急通報機能を兼備したスーパー防犯灯の整備が検討され、平成19年4月に設置、稼働しております。

設置箇所につきましては、次頁に参考までにつけさせていただきます。スーパー防犯灯位置図というものをご覧いただきたいと思います。本庁地区にNO1～6ですが6基、米が浜地区に2基、合計8基で稼働しております。

これを設置したことにより、基地周辺地区の犯罪防止効果を高めるとともに、事件発生の際の速やかな解決を可能といたしまして、犯罪・事件に対する市民の不安を取り除く、現在、一助となっていることも事実でございます。

一昨年の平成25年3月31日にスーパー防犯灯の主要機器が法定耐用年数、6年となりますけど、満了となりましたので、今後も引き続き安定して稼働するために、平成25年度に、機器の交換及び改修を実施しております。

この更新に伴う大きな変更点、これが映像の伝送をいままで無線で行っていたんですけど、それを有線の専用線に変更することによってセキュリティ機能を高めています。それと有線になりましたので伝送速度も相当速くなったと、また画像のほうが大幅にアップしてございます。現在、画像を見ますと地上デジタル放送のハイビジョンと同等の画像でございます非常に鮮明な画像となっております。

2番目でございますけれど、スーパー防犯灯の稼働状況の平成19年度設置から平成26年度2月末までのデータになりますが、通報件数等を載せてございます。

一番上に通報件数がございます3段目に、いたずら等、というのがございます。非常に件数が似通っているということで、いたずら等が多くなっています。我々が保守点検する際のもの、これらがいたずら「等」に入っていますけれど。

真ん中の事件関係というところ一桁台で推移していますけれど毎年、数件ございます。主だった内容としては不審者通報、女性の方から連絡があつて即座に本町交番の方が駆けつけたんですが、既に立ち去ったあとだったであるとか、あと、人が倒れていたというもの、それはすぐ駆けつけた警官が119番通報してその方を救ったとか。また喧嘩を目撃して通報し、警察官が駆けつけてその場を対応して治めた、というようなことがございます。

こういったような事件通報というのが年に数件。ここのところ3件くらいで推移しておりますけど、いずれにしても防犯灯につきましては、押した瞬間にすぐ横須賀警察署のほうとつながり、警察官の方とお話できてすぐに対応していただけるということで非常に役立っているということでございます。

3番になりますけど、本町、汐入、米が浜地区の刑法犯の認知件数というものを参考までにつけさせていただきます。刑法犯の認知件数ですので、横須賀警察署の方がいらっしゃるなかで恐縮なんですけれど、設置前で4,993件ありました。これが市域全体でございます。それが26年には2,654と約半数近くになってございます。ちなみに刑

法犯の認知件数ですと平成14年、7,214件というのが横須賀市で最大の件数となっております。それから比べると現在は3分の1くらいになっていると。これはやはり皆様方の防犯パトロールをやったりですとか、スーパー防犯灯はじめ防犯カメラが付いた結果なのかなと推理しております。特に平成18年から19年に関しては、これはスーパー防犯灯の直接の影響が若干あったかもしれませんが、最大幅で減少しているということが見受けられます。

最後になりますけれど、今後も皆さま方と連携を密に致しまして犯罪の無い安心安全のまちづくりにまい進して参りますので、ご協力方よろしくお願い致します。

沼田会長

ただいま事務局からスーパー防犯灯の稼働状況ということで説明がありました。これについてご意見ご質問等があればよろしくお願い致します。

大久保構成員

これで艦船が2隻ですか増えますね。そうすると7、8百人の兵隊さんが見えになるわけです。それで住居なのですが、いま外に住んでいらっしゃる方と基地内、もしくは逗子に住んでいらっしゃる方の数字的なことはどうなっているのでしょうか。外に住んでいらっしゃる方の把握はされていないですか。

事務局（基地対策課長）

現在、米軍人等の人数については、防衛省の指導により公表できないことになっておりますので、申し訳ございませんが、その数については申し上げられません。

大久保構成員

今日は防衛省の方もいらしてますが、今後基地外に住んでいただくことになるのか、それとも基地内に住むことになるのか、先ほどお話に出ていた独身寮とか造る予定はあるのですか。

伊波構成員

当局の調達部というところがございまして、建設工事は行ってはいるのですが、確かに昨年、若い方が住む独身寮を造っています。その後の予定だということになりますと大変申し訳ありませんが、私どものところはそういう機能がありませんので、情報が入って来ないというのもあるのですが、こういったものについては整備していくという情報もございまして、基本的には基地内で住む方が多くなる。ただ上官の方については、我々は承知していませんので、清水民事部長のほうでどうなっているかご指摘いただければ。

清水構成員

数値的なものは、事務局がおっしゃられたとおり開示することが出来ないのですけれど、私どもの内部の方としては、把握しております。当然ながら、先ほどニーマイヤのほうがいきましたように独身寮の必要性というのも非常に多くなっておりまして、ただ家族住宅もですね、今、現状でも逗子、池子の方にもあります。いま大体稼働率としては、ほぼ埋まっているのですが、入れ替わり立ち替わりが多いということ、また今後も建築計画がございますし、また基地外で住宅をお借りするベース契約というのもまだ引き続きお願いしていくものでありますので、現状としては特にドラスティックに何かが変わるといえるのは無いかなと思います。

私どもとしても人員等に見合った形での住居、もちろん基地の中で足りなれば表に頼らざるを得なくなりますが、そういった形で上手に運用していきたいなという風に考えています。

大久保構成員

わかりました。

山下構成員

最近、ベース周辺に単独の7階建てか8階建てのビルが建っていますね。あの東急さんがやっているような。あれは何ですかね。ちょうど平安閣の前あたりで。

清水民事部長

私どもの方では無くて、表の業者の方、例えばホテルニューヨコスカさんですとかハローロッジさんですとかそういったところが今、彼らの方のいろんな見込みで建てられて、米側としては特にお願いしたいとかお願いして建てているというものではありません。当然何か、我々の方で使用に耐え得ればお借りしたいと思いますが。

山下構成員

ハローロッジさんもね、外人が殆どなのかなって聞きたかったんですけど日本人も入ってますね。

清水民事部長

ハローロッジさんなんかも見込客として米軍人、軍属、また米軍に来る業者っていうのもいるんですね、アメリカから。

そういった人たち向けの住宅ということで何か造られているようですが、こちらとしては特に契約しているわけでもお願いしているというわけでも無いので、それらに

関しては我々も把握できていない部分があります。

山下構成員

わかりました。

大竹構成員

先ほどのゴミの問題のことですけど、確かに日の出町の方でも多少そういう問題はございます。ただ色々お願いして市から出ている英語のパンフレットをお渡ししても、なかなか、アメリカ自体の習慣でゴミはまとめて捨てるというのが基本だと思っているので、なかなかそこから脱しきれないというのはあります。

したがって管理している方、オーナーの方ですとか、あまりそういうことに関して管理会社任せとかエージェンシー任せになってしまうので、何かエージェンシーの方々にきちっとその辺をやっていただくとかしないと。入居する時は一生懸命でパンフレットを渡してそれでお終いということになってしまうと、あとあとやっぱり問題が起きると町内会で処理していかなければならないということになりますから、エージェンシーの方々にご協力いただきながら、そういうことをちゃんとやっていく方向は無いのかなっていうのをご検討いただければと思います。

清水構成員

大変貴重なご意見だと思います。是非ハウジング事務所を通じて、私の方からもそういった業者に対してお願いをしていくとともに、もちろん実際アメリカ人の、使う側にも、これは日本の文化のひとつ、住まうには必要なこと、大事なことだと思いますし。

これは彼らにとって損する話では無いですからね、やはり分別してエコロジー、環境にも貢献できることですので、そういったことを覚えていってもらってアメリカに持ち帰ってもらうのも良い形の教育だと思いますので、それも徹底していきたいですし、もちろんエージェントさんのサポートというのも引き続きお願いしたいなと思います。

確かにおっしゃるとおり、エージェントさんから紙をポンと渡して終わり、というのも中にはいらっしゃるようです。そういったことが無いように引き続きお願いしていきたいと考えています。

大竹構成員

市の方も、そういったことに対しては、そのエージェンシーに対する教育というのを別途やっていただくと有難いなと思うのですがね。よろしくお願ひしたいと思います。

事務局（基地対策課長）

貴重なご意見、参考にしながらより良い住民の環境を整えるようにしたいと思います。

越川構成員

今までの話、お伺いしてはいますね、逆の立場になってしまうかもしれませんが、赴任とか着任してくる米兵及び米軍属の方には町にどんどん出て来てもらいたいと思っています。

逆に言えば横浜、東京六本木のほうに、ここを通り越して行くのではなくて、町にどんどん出て来て買い物して欲しいし、そう言った事を言うと私が商店会関係の人間なので、ちょっと違うかもしれないけど、町のなかに出て来ていただいて、どんどん日本の方と交流を図ってですね、基地の中の独身寮に住んでいるのではなくてですね、逆に表に出て来てもらってもっと交流をして欲しい、というのが私からのお願いです。

ニーマイヤ構成員

横須賀に勤務に来るという命令が出てくると、外国に住んだことが無いアメリカ人は怖くなって不安になる人は多いです。でも一回横須賀に来ると気持ちは変わります。逆に、横須賀に勤務させてくださいっていうのが大体7割くらい、手を挙げて引き続き勤務できるように要求するのですよ。

だから是非そういう良い関係を増やすとか改善できるような方法があれば良いですね。もともと素晴らしいところで、アメリカ人がここに通えることも光栄に思っています。そのくらい横須賀が良いところだっていう証拠ですね。お互いに上手くいってることの証拠ですね。

土屋構成員

基地のすぐ隣が私の町内なのですが、約1,000戸、数にしてあるんですね。ほとんどがマンションで町内会長も15年もやっていますけども、約200所帯くらい米軍の方が住んでらっしゃる。で、ごく身近な私の住んでいるマンション、58戸のうち、22戸が兵隊さんに入ってもらっているんです。

それでこの間、余所の人が来られてですね、とても半数近くのアメリカ人が住んでいるマンションには見えませんね、ゴミ一つ落ちていませんね、煙草の吸殻ひとつ落ちていませんねと。その人はかなり大きくやっている不動産屋さんですけどね、余所はアメリカさんが住んでいるところと言えば、必ず廊下に煙草が落ちていたりゴミが落ちていたりというようなことがある。

私もそういうことには今まで厳しく綺麗にきなさいと管理人には言っているんですが、前の船の兵隊さん、これは本当に人種が違うのじゃないかっていうほど悪うございました。だけど今度来られた船の兵隊さんは人種が変わったのじゃないかというくらい立派です、皆さん。

ですから私が申し上げることはあまり無いのですが、昔はですね、夜遅くまで騒ぐ、廊下中に消火器を振り回すだとか、まあいろんなことがありました。だけど今はそ

ういう問題は私の町内では聞かなくなりました。

やはり先ほどから教育の問題おっしゃられていますけれど、教育というのは恐ろしいものです。これから新しい船が来られる方にも、ひとつ十分教育をして日本にきて頂きたいなと思います。

沼田会長

他にいかがでしょうか。

それでは、さまざまなお意見頂きまして本当にありがとうございました。事務局の基地対策課でできるだけ検討し、ご要望に応えると、そういう形にお願いしたいと思えます。

今後とも基地の周辺地区の安全と安心、これについて努力したいと考えています。協議会の皆さまにおかれましては十分なお理解を頂きましてご協力を頂きたいと考えています。

それではこれを持ちまして、第8回の基地周辺地区安全対策協議会を閉会とさせていただきます。本当にお忙しい中お集まり頂きましてありがとうございました。

事務局（基地対策課長）

事務局の方から最後にお詫びと事務連絡がございます。

事前にお送りしています当協議会の要領ですけれども、文言整理の関係で委員長を会長というふうに名称変更しております、そのご報告が遅れましたことにお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。今日は協議会の場でございましたが基地対策課まで、引き続きご意見頂ければ、ひとつひとつ丁寧に対応していきたいと思えますのでよろしく申し上げます。